

今こそ読みたい！科学絵本

～学校など集団への読み聞かせ～

学校でのおはなし会で、物語の絵本だけでなく科学絵本の読み聞かせをしてみたいと思っている方はたくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。

しかし、科学絵本はたくさんあり、何を選べばいいのかわからないという声も多く聞かれます。今回はそんな方向けに、おすすめ科学絵本を紹介いたします。



おはなしボランティアさんからのアドバイス

おはなし会のプログラムに科学絵本を取り入れると、より物語の絵本が活きます。例えば、科学絵本『雪の上のなぞのあしあと』（あべ弘士著 福音館書店）の後に写真絵本『タテゴトアザラシのおやこ』（福田幸広写真 ポプラ社）を読むと、アザラシとは何かが分かるので物語の絵本の良さがより伝わります。

低学年向け

ぼく、だんごむし



得田之久 文
たかはしきよし 絵
福音館書店 (7分)

子どもたちに大人気の「だんごむし」。その生態は意外と知られていません。「だんごむし」の主食は、落ち葉や人間の出す食べ物のカスであり、コンクリートも食べるのを知っていましたか？貼り絵で楽しく描いた観察絵本です。

読み聞かせおすすめポイント

「だんごむし」の目線でわかりやすく語りかける文体が「だんごむし」への優しさを伝え、子どもたちは食い入るように聞いてくれます。

つつくとまんまるになる「だんごむし」、公園で見つけて手のひらに乗せて触っている子どもたちのうれしそうな顔がほほえましく感じます。ケースに入れて観察すると、もっともっと発見があります。虫をはじめ、生き物に興味広がります。

まほうのコップ



藤田 千枝 原案 川島 敏生 写真
長谷川 摂子 文
福音館書店 (4分)

ただのコップに水を入れて、コップの向こうをのぞいてみると…。あれあれ？不思議なものが見えるよ。いちごがぐんにやりつぶれたり、みつつにふえたり。きのこや急須はどんな形に変わるかな？日常の中の不思議に気づかせてくれる本です。

読み聞かせおすすめポイント

コップを通して見るだけで、まほうのように姿を変える世界に子どもたちの目が輝きます。そして読んだ後は、誰もが自分で試してみたいくなります。

中学年向け

だいち えだまめ まめもやし

(かがくのとも279号 1992年6月号※)



こうや すずむ 文
なかしま むつこ 絵
福音館書店 (7分)

くいしんぼう三人兄弟が隣のおじいさんからもらった大豆。畑にまいて秋になると沢山の大豆がとれました。次の年は三人それぞれでやってみると、さてどうなったでしょう？植物の成長、そして私たちの暮らしとのつながりが同時に味わえる本です。また、お話し立てで親しみやすい絵本です。

読み聞かせおすすめポイント

もやしってこうやってできるんだねと感心したり、枝豆って大豆なの!と驚く子ども続出！大豆ってこんなに身近な豆なんだってあらためて知ってもらえるはずですよ。

とりにったきょうりゅうのはなし
改訂版



大島 英太郎 さく
福音館書店 (5分)

恐竜はどうして絶滅してしまったのでしょうか。いいえ、恐竜は進化を続けて今も生きています。翼をもち飛ぶことのできる恐竜の子孫は生き残っているのです。それが鳥です。この絵本は、恐竜と鳥との共通点を通して、どんな進化を遂げて現代の姿になったかをわかりやすく説明し、最新の研究に基づいて書かれている絵本です。

読み聞かせおすすめポイント

この絵本を5年生に読みました。丁度、授業で恐竜のことを学んでいて、タイムリーな絵本だったようで1ページ1ページ、とても反応が良く、先生も一緒になって絵本を楽しんでくれました。最後に初版本と改訂版の違いを紹介するのも面白いです。

高学年向け

ちいさなちいさな めにみえない
びせいぶつのせかい



ニコラ・デイビス 文
エミリー・サットン 絵 越智典子 訳
ゴブリン書房 (7分)

突然、微生物と言われてもどんな生き物なのか、自分とどんな関わりがあるのかなんて分かりません。けれど、本書では一番最初に微生物とは全く関係がなさそうな大きな鯨と小さな蟻が描かれています。なぜって、微生物は小さ過ぎて蟻の触覚を鯨くらいに大きくしないと見る事ができないから。わたしたちの身のまわりにいるちいさなちいさないきもの、微生物について書かれた本です。

読み聞かせおすすめポイント

このように身近なものに例えられると、子どもたちにもスッと入ってくる様で、とても反応が良かったです。高学年になると顕微鏡を使って微生物を見たことのある子もいるので、より理解が深まります。よく聞いていました。

最後のページには宇宙から見た地球が描かれています。このページを見たひとりが「宇宙にも微生物はいるのかなあ」って聞いてきました。「自分で調べてみてね」と返答しましたが、こういう絵本に触れたことで、こんな発想が出来るんだと驚きました。

富士山にのぼる 増補版



石川直樹 文・写真
アリス館 (7分)

「富士山、日本でいちばん高い山だ・・・冬のある日、ぼくは富士山にのぼることにした」

冬山登山の厳しさ、そして登るにしたがって目の前に広がる美しい景色、まるで自分が登っているかのような臨場感のある写真絵本です。

読み聞かせおすすめポイント

一步一步踏みしめて進む、登りきればそこには新しい世界が広がっている、それはまるで子供たちがこれからの未来へ向かって生きてゆく様と何か重なるものを感じることでしょう。最後に冬山登山装備一式のページも紹介したいです。

中学生向け

かき氷 天然氷をつくる

細島雅代 写真 伊地知英信 文
岩崎書店 (14分)

埼玉県長瀬町で長年天然氷を作ってきた「阿左美冷蔵」を約10年間取材して作られた写真絵本です。学校によっては10分しか読み聞かせの時間が取れないところもあると思いますが、かき氷の製造の過程を描いている作品なので、事前に読み合わせて、多少端折っても写真が物語ってくれるので問題ないと思います。

風をつかまえたウィリアム

エリザベス・ズーノン 絵
さくまゆみこ 訳
さ・え・ら書房 (10分)

日照りが続き、農作物が獲れなくなったアフリカのマラウィ。ウィリアムは図書館の本から知識を得て、手作りで風車を完成させます。

中学1年生に向けて読んだとき、「ウィリアムが、風をつかまえて電球を明るく光らせたのは、14歳のときだよ」と伝えると「あ、来年の夏だ！」とハッとした声が聞こえてきました。

編集発行 埼玉県立久喜図書館 子ども読書支援センター
協力 子ども読書支援ボランティア
発行 令和6年3月
〒346-8506 埼玉県久喜市下早見85-5 TEL 0480(21)2659



埼玉県のマスコット
コバトン



他の読み聞かせ
ブックリストは
こちらから